

ひがし

通算第 104 号
2025.1.15 No.20

狭山事件とは

脅迫状を書いたといわれている「被害者の万年筆」

一九六三年5月に埼玉県狭山市の女子高校生が行方不明となり、身代金を要求する脅迫状が自宅に届いた。警察は40人も的人数で張り込んでいたが、金の受け渡し場所に現れた犯人を取り逃がし、生徒は遺体で発見された。警察は部落出身の石川さんを逮捕し、1カ月にわたる取り調べで自白に追い込み、石川さんは無罪を主張するも無期懲役が確定した。94年に仮出所、それ以降再審を求めて30年が経ち、石川さんも現在は86歳となった。石川さんの有罪の証拠となったのは「被害者の万年筆」、脅迫状を書いたといわれている「被害者の万年筆」この万年筆は、石川さんの自宅の「かもい」から発見された。「かもい」の高さは175センチ、十数人の捜査員が狭い自宅を2回も搜索し見つからなかったのに、3回目に突如出てきた。

私もずいぶん前に狭山市にある石川さんの自宅を復元したところでその「かもい」を見ましたが、絶対に万年筆があればすぐわかる高さでした。

袴田さんと同じ証拠の捏造が疑われます。

ぜひとも再審が行われ、石川さんの無罪が確定してほしいと思います。

あけまして

おめでとう

ございます

本年も、人権を守り、部落差別解消に向けて啓発に努めてまいりたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

去年は、袴田さんの再審無罪が確定しました。検察も袴田さんを犯人と決めつけたかのように自白を求めるといった問題があったと指摘されました。ぜひ、今年は狭山事件も再審が実現してほしいと思っています。